

ひかりのこ

6月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2024年5月24日

月主題：みつける

気温が高くなり、園庭の姫リンゴの花が満開となり、いろんな虫たちも這い出してきた、子どもたちにとって、お外遊びが楽しい時期となってきました。

私と教頭先生は先日の日曜日、幼稚園のお花や、園庭の畑に植えるキュウリを、由仁町まで買いに行きました。ここのお店の苗は、根がしっかり張り、すでに大きく育っているのに、お値段が札幌のお店より3割くらいお安いので、数年前から利用しています。

去年から、様々なものが値上がりになり、野菜や花の苗も、びっくりするくらい値上がりしていますので、このような努力も欠かせないのです。

これから教頭先生と忠志先生で園庭に植えていきます。また、今年もトマトを植えていきます。

すずらんさんが先日植えたジャガイモは、さすがにほとんどがまだ土の中ですが、2週間ほど先に植えた私のジャガイモは、もう芽が出てきました。

子どもたちは、すずらんさんや、園長・教頭が作った野菜が大好きです。去年の秋に私たちの作った大根を給食に提供しましたが、子どもたちからは「園長先生、大根おいしかったよ!」、提供が終わっても「園長先生の大根食べたいよー!」とお声がかかります。野菜が嫌いだった子も、おいしいおいしい、と食べてくれるので、作り甲斐があります。

そこで、今年の8月の父の会は、皆さんで畑に行って、作業をしていただければありがたいです。まず、すずらんさんがお芋を掘った跡をもう一度よく見て、掘り忘れのジャガイモがないか、探していただき、そのあと、耕運機で畑を耕して、大根の種と白菜の苗(私が7月から作ります。)を植えてほしいのです。そうすると今年の給食で「お父さんたちの大根と白菜」を子どもたちに食べさせることができるのです。

なんと豊かなことでしょう!子どもたちにとっては、お店で売っているものより、何倍もおいしく感じることでしょう。今から楽しみです。是非、皆様、ご参加ください。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「さわる」から「ふれる」へ

ツノの生えた虫と書いて「触」と書きます。この漢字に「触る」と送り仮名をふると「さわる」と読み、また、「触れる」と書くと「ふれる」と読むことができます。

東京工業大学「未来の人類研究センター」センター長の伊藤亜紗教授は、自著『手の倫理』の中で「さわる」という行為と「ふれる」という行為について、私たちは、無意識にこの二つの表現を、一方的か相互的かの視点で区別していると語ります。

「さわる」とは、私たちが自分の意志だけで物や人に手を置こうとする行為を指し、「ふれる」とは、相手に配慮して手を置こうとする行為を指す言葉としてニュアンスの違いがあると説明しています。「患部にさわる」と「患部にふれる」ではその行為に付随する心持ちが異なり、後者はより相手の痛みや心情に寄り添う行動であるという使い分けが存在するのは、言い得て妙です。

絵本や先生たちとの触れ合いを通して、子ども達の心に触れる保育がこれからも神様の御手のうちに保たれますように。

チャブレン 司祭 上平 更

